

## 平成 18 年度第 4 回八幡地域協議会会議録（概要）

日 時 平成 19 年 1 月 23 日（火曜日）午後 1 時 30 分～午後 4 時 40 分

場 所 酒田市八幡中央公民館第一研修室

出席者（14 人）

1 号委員 安藤浩夫 佐藤ひとみ 遠田清之 小野明美 堀茂雄 加藤智子

2 号委員 大瀧雅士 荒生豊 佐藤貞夫 後藤純子 高橋知美

3 号委員 田村和徳 後藤泉 池田善幸

八幡総合支所 支所長 三柏憲生、地域振興課長 池田保、地域振興課主査 佐藤弥

欠席委員（1 人） 2 号委員 村上三喜郎

傍聴者 男性 2 人、女性 1 人

### 議事日程

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 支所長あいさつ

#### 4 会議録署名委員の指名

#### 5 協 議

##### (1) 地域内振興に関する課題について

「鳥海山を活用した魅力ある観光地にするためには」について

・資源を生かした観光のあり方

##### (2) 「放課後こども対策提言書」について

##### (3) 地域コミュニティづくりについて

##### (4) その他の地域課題について

#### 6 その他

- ・ 任期が 3 月で切れるので、感想文の作成依頼について
- ・ 19-20 年度地域協議会、公募委員の選出日程について
- ・ 由利本荘市鳥海地域協議会との交流について

#### 7 閉 会

## 1 開 会

**副会長** ただ今から第4回の八幡地域協議会を始めます。会長挨拶をお願いします。

## 2 会長あいさつ

**会 長** 明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

今日は、最後の地域協議会ということになりますが、前回に引き続き、観光分野について話し合いを深め、放課後子ども対策についての提言書とともにまとめたいと思います。皆さんから忌憚のない意見を出していただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

**副会長** 続きまして、支所長からご挨拶をいただきます。

## 3 支所長あいさつ

**支所長** 皆さん明けましておめでとうございます。19年になって1回目の協議会ですので、19年の状況を皆様にお伝え申し上げたいと思います。

まずは市長の年頭訓示において、「これまでは一体感の醸成期間として、それなりに配慮をしてきた。しかし、19年度、新しい年度からは大きな発展を期す年度にしたい。いわゆる基盤はある程度整ったので、これからはその上に一定の成果を構築していきたい。」発展の年度にしたいと意気込みの話だったろうかと思えます。

2点目といたしましては、効率化、合理化は、避けて通ることは出来ない訳です。「その効率化、合理化について、真の意味の効率化、合理化というのは温もりのある効率化、合理化でなければならない。相手の気持ちを汲み、十分説明をして、相手方から納得のいくまでお話を頂いて、「それは理解できました」という形で効率化、合理化が図られるのが真の意味の効率化、合理化であると、そんな年度にしていきたい。情報交換、情報公開をして、皆さんで話し合いながら市というものを築いて行きたい」というような話でありました。

3点目には、「苦勞した分だけ報われる行政、汗水垂らした分だけ成果の上がる行政を目指して行きたい」ということのでございました。そういう点から言えば皆さんからは、これまで平成17年11月から地域住民の代表として、ご尽力を頂いた訳でございますが、今年の3月31日を持ちまして一区切りということになる訳であります。私としては、これまでの経験を生かし、ぜひ、引き続きお力添えいただければと思っておるのですが。まあ、市長からは今申し上げましたように、努力した分だけ報われると、途中で挫折しないということでありましたので、引用できるのではないかなと思っておるところであります。

そういう話があったものですから、これは展望が開けるかなと思っておりましたところ、昨日、19年度の予算内示がありました。それを見てもみると、旧市も、旧平田も旧松山も非常に厳しい。一言で申し上げれば、特別会計への繰出金が膨らんでいるため容易でない状況なのかなと思っておるところであります。

皆様方本来の業務のひとつであります、提言という、あるいは諮問に対する答申がある訳ですので、そうした皆さん方の本来の役割を遺憾なく発揮していただくようご協力を賜りたいものだと思っております。

いつの新聞記事でしたか「議会もなくなってこの地域の特別職の代表も少なくなっていく。

このまま変わっていく姿を漫然として見過ごす訳にいかない。やはり一市民の立場で、一地域住民の立場で、言うべきことはきちんと言い続けて行きたい」というある委員の話がありました。非常にありがたいかつまた私の心に沁みる感じがいたしました。ぜひ、皆さん方もそういう気持ちで、今まで以上の働きをご期待したいと思います。

#### 4 会議録署名委員の指名

**副会長** ありがとうございます。引き続きまして、会議録署名委員は9番委員の荒生豊さんをお願いします。協議は会長から議長をさせていただきます。

#### 5 協議

##### (1) 「鳥海山を活用した魅力ある観光地にするためには」について

**議長** それでは協議に入ります。今日は4項目について協議して行きたいと思います。1番の地域内振興に関する課題について「鳥海山を活用した魅力ある観光地にするためには」について事務局より説明をお願いします。

**事務局** 予定時間は60分としていますが、議論が出尽くしたら終わりにしたいと思います。前回は2時間と時間制限でして、言い足りなかった部分があったと感じましたので、再度協議願いました。八幡の地域として何が出来るのかが一番の課題かと思っています。実践する上で何が必要なのか、行政の立場、それから住民の立場として必要なことをご議論いただきたいと思います。これまでの議論、新聞記事などの情報を見ただきながら、やる気を出すためには、また楽しく、なおかつ儲かるというようなこと、住民がアクションを起こすには何が 필요한のか、お話いただきたいと思います。

**議長** 様々に資料をいただきましたが、八幡地区においては、皆さんどういうことがやれるか、楽しく、儲かるという視点でお話いただければ、いかがでしょうか。

**委員** 登山客は増えている。団塊の世代の方々が退職を迎え、50代、60代の夫婦での登山が多くなっている。そういう方々はある程度お金の余裕はある。宿泊なり、喜ばれる料理などの研究が必要なのではないか。新しいものを開発するだけでなく、昔あった料理なり、昔食べたものが逆に目玉になると思う。そういうものであれば、すぐに商品として対応できる。これまであったものは一つの資源だと思うので、この資源を生かすのが観光のあり方かと考える。

**議長** 登山者が必ずしも宿泊するとは限らないですね。宿泊利用は、鳥海山の登山客の中ではどれくらいでしょう。お金をかけないで登る人が多い印象があるのですが。

**委員** 首都圏から来る人は、鳥海山の次に朝日に行こうとか、かなり転々としているので日帰りする人が多いと思う。

**議長** 登山される方は多いけれど、地元にあまりお金は落ちないということですかね。

**委員** 遠来の鳥海山登山者のほとんどは、関東・東京周辺から来ています。鳥海山だけに登るのでなく、月山と鳥海山を一つのルートと考えている人が多い。鳥海山周辺は宿泊する場所が限られている。吹浦の遊楽里で話を聞くと、夏山登山シーズン、そこの職員が鳥海山を案内している。初めて登る人は案内人がいることで安全ですし、山の知らないことも説明してもらえる。そういうことによって、鳥海山のファンができることになります。また、何

ヶ月も前から計画して遠くから来る人は、天候悪くとも登れるのではないかと霧の中に入って行き、道に迷うといった、無理な登山をしてしまう。観光会社のツアー登山はスケジュールが組まれているものだからどうしても無理してしまう。お客さんからお金を落としてもらうには、やはり宿泊。500人泊まれるような宿があればいいのだが、泊まりたいけれど泊まれないのが現実である。

あともう一つは、升田の奥山に山菜取りあるいは溪流釣りの人方が、何千人も入山している。一昨年までは共用林野ということで、山菜採りシーズンは八幡町以外の人から一人1000円頂戴して、入山してもらっていた。山が荒れている。産業廃棄物も捨てられていた。これを目にすると、観光、観光ということでは済まされない。鳥海山の宝物を守るためには、金をかけて守らなければならないことを肌で感じる。溪流釣り、山菜採りも一つの観光で持っていけないかと思っているところだ。

**議長** 山登る人もそうですし、独自の判断で登る、あるいは観光会社を通じたツアーという現実。地元から直に情報を発信できないのかな。

**委員** 鳥海山荘に関して思ったことだが、山登りの格好の人もいれば背広姿もいて違和感があると思う。山荘はターゲットにしている客層はなくて、泊まってくれれば誰でもいいととれる。登山ニーズ用、一般観光用と、別にあるべきだと思う。国立公園にある宿泊施設としては、似合わない光景が多いのかなと思う。

**委員** 時々、鳥海山荘に風呂に入りに行く。いいお湯なのに、露天風呂が小さすぎる。風呂を楽しむ施設ではない。方々の露天風呂に行く機会も増えているため、何で小さいのかという感じ。一人でも多くの人から来ていただきたい、愛されて欲しいのであれば、もっと考える必要があると思った。

**委員** 東京の知り合いに「宿あるの」と聞かれる。ホームページで調べても、鳥海山に登るための宿泊施設は鳥海山荘と旅行村しか載ってない。民泊の情報もどこにあるのか分からない状態である。山のガイドも山岳会の方がしていますが、どこに連絡すればいいか分からない。情報の案内が一番目に必要。ぐるっとバスの情報にしても、遠くから来る人はその情報を得るのが難しい。そういう案内情報が、鳥海山、登山で調べた時にスパッとでる、そういう案内がなければ人を呼ぶことは難しいと思う。

**議長** 民泊について、案内の仕方について出ましたが、ビジターセンターとかインターネットとか話されていませんが。

**委員** 私たち鳥海インタープリター協会で年数回、案内をしている。これから退職期を迎える団塊の世代は、自由な時間を全国の山歩きに使う人も相当いると思う。そういう人は山の情報に関して全くの素人。鳥海八幡インタープリター協会主催の鶴間池の紅葉とか春山の鳳来山トレッキングに参加する人は、自分一人では行けない人たちがほとんどだ。イベントに参加する人たちが企画にはまってくれれば、八幡のお土産も買っていただけることになる。インターネットでもそうだが、鳥海を案内する案内所的なものがあり、そこに連絡すれば何でも分かるものが必要になる。天気の悪い日鳥海山に行けないけれど、ほかを案内できる形になれば八幡好きの人たちが増えてくる。去年鶴間池に来た人たちも、参加の礼状を出すとすぐ返事がくる。「また来たい、来たい」という人ばかりで、そういう雰囲気づくりをやっ

いかないとリピーターはこないのかなと感じている。インタープリター協会や山岳ガイド協会の案内人の拠点とか、ミュージアム的な施設とかが必要だと思っている。

それにグリーン・ツーリズムにしても、民泊できる家庭は升田に何軒あるかが分かるように体制を整えていかないといけないと考える。

それと、升田のふれあい館に荒町子供会で、夏の親子合宿で利用したが、ここが泊れない施設になったと聞いた。なんでそうなるのかなと。非常に不満に思う。学校行事などで使われてきたものが、酒田市との合併が原因なのか。升田の人たちも納得したのかどうか分からないが、不満の声も聞こえてきます。升田で地域づくりやって、食べ物は升田のお母さん方が作ってやれるような民泊体制を作りたいなあと思って作った施設じゃなかったのかと思っていたものだから、残念だなと思った。

**議長** ふれあい館のことについて、どういういきさつだったのでしょうか。

**支所長** まず確認していただきたいのは、升田のふれあい館は介護予防拠点施設という目的で作られたことです。ですから本来、お年寄りのミニデイサービスなどに利用する施設です。升田のふれあい館も今後高齢者介護需要が高まっていくということで、跡地利用も考えて施設を整備した背景があります。せっかくだからお年寄りだけでなく、子どもも、地域の人も、空いていれば利用していただいたほうがよろしいのではという考え方で、条例、規則を作りました。しかし、宿泊あるいは料理等の提供には、旅館業法、公衆浴場法にあった施設整備が必要ですが、そこまでは予定してなかったのです。ですから、ストップをかけられたのは、合併したからではなくて、そもそも宿泊だとか、料理の提供は出来ないことがあって、それが改めて確認を求められたということです。最初から宿泊や料理の需要は出てくるだろうと思っていました。そこはある程度融通を利かせてできるんだろうという気持ちはあったが、改めて、これはだめですよと示されたら、私どもとしては、それを超えてまで無理にやろうということは出来ない話です。今後のことについては、資格を取っても、許可を得ても、再度、姿を変えて立ち上げましょうということが多くの方々から出てくれば、見直しをすることは当然吝かでない。今後の協議次第ということはあるのではと思っております。

**委員** あまり利用しない施設に予算をかける訳いかないですから、稼働率とかも関連してくる訳なのですか。

**支所長** 勿論です。施設を作る、あるいは事業を起こすとき、その殻にあったものを作って、利用効率を高めていくということは当然求められます。事前評価、段階評価、事後評価をし、検証していかなければなりません。事前評価がうまくないということであれば出来ないわけです。先ほど鳥海山荘の露天風呂が小さい、部屋数が少ないとありましたが、これまでの実績、需要調査などを行ってみての整備となります。大きければそれに越したことはないわけですが、大きくすれば日々の経営に莫大な費用がかかるわけです。その金は全て税金です。一般的に、旅館などの稼働率は40パーセント以上が必要といわれているそうです。鳥海山荘なら15000人の40パーセントですから年間通して6000人が入るようでないといふことは採算は取れないというようなことです。施設の維持管理などを中長期的に考えて、安定的に経営できる規模が出てくるわけですから、一つご理解いただきたいと思えます。

また、最近聞いた話に、風の盆で有名な富山県八尾町があります。人口6000人の町に、8

月 20 日ころから 31 日頃まで、30 万人の観光客が全国各地から訪れるそうです。それはどうしてか。他の盆踊りにない魅力も兼ね備えていると思いますが、どなたかから出ましたように、もう一度来てみようという、そういう温かさだとか、引き付けるようなものがあると思います。魅力づくり、引き付けるものを創る。来ないから出来ないのではなくて、この地域に多くの人を呼ぶために、あるいは金を落としていただくために、そういったことを学びながら考えていかなければならない。やり方によっては可能性はあると言うことです。

**委員** いままでの八幡での取組みが甘かったということだと思います。許可とかを考えれば、それはしょうがないことだという感じはします。しかし、血の通った行政するのであれば、「いきなり、ふれあい館使うな」と言うのではなくて、もっと違う方法があるのではと思います。旧八幡町民誰も知らないですね。申込んだところ泊まれなかったという形では、温かい行政としてはだめだと思います。

それから、今まで滝の里活性化事業ということで、旧八幡町で升田地域活性化のために色々やってきた訳ですので、酒田市でもそれを引き継いでもらって、行政がある程度パートナーシップを持ちながらバックアップしてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

**議長** 地域住民の方がやる農家民宿とかグリーン・ツーリズムとか、そっちのほうは如何でしょうか。

**委員** 今、話を聞いていて、私は夕張のことを思い浮かべてしまいました。ああいう風に、八幡の地域をしてしまっただけではいけない。観光の核になる物的なものを論じようとしているけれど、そういうことをやっても失敗するだろうと思った。なぜなら、鳥海山は日本一の山ではない。升田の地域は日本一の観光地ではない。日本一の川であったり、日本一夕日が素敵だったり、そういう特色がある場所ならいいのだが、我々は八幡の全てが素敵だとは思っているが、他所の人は本当にそう思っているのか。みんなそれぞれにふるさと持っている訳だから、自分のふるさとが一番だと思っている。でも、あそこに一度行ってみたいと思うのは、小説や映画あるいはドラマでみたところを、想像力働かせているからです。そして行ったらいい思いしたからまた行こうとなる訳です。残念ながら八幡はそんなに有名ではない。鳥海山も百名山の一つとはいえ、そんなに有名ではない。観光地として、物とか自然だけで展開していくにはちょっと無理がある。もし本当に人を呼んで、金儲けしたいのなら何百億も投資しなくてはならないが、この地域にその力はない。そうであれば、大きく考えないで、地べたで物事考えないといけない。日本一とまではいなくても、この鳥海山系の遊歩道を日本一素敵な遊歩道にする。ゴミひとつないきれいな道になれば、人を引き付けてくるような気がするんです。特に今日の財政難の中で、行政を当てにしてはしょうがない。地域の農家と農業なり、商業なりの団体の農家がもっと力を合わせて、出来る範囲から一步一步やって行って。10 年かかっていいと思う。ただ 10 年後に鳥海山に来る人が、すごくいい思いして、また来たいと思えるようなものをつくっていくことが大事だと思う。

**支所長** 風の盆でもう一つ。全国各地から 30 万人も集まる八尾町には、町に車を停めてぞろぞろ歩いたり、シャトルバスで通わせたりしている。そんな八尾町はどんな形容になるのかと私なりに調べてみました。そしたらある人から最近聞いた話で、稲畑汀子さんの俳句に言っていて妙な句がある。「この小さき町へ町へと風の盆」というのですが、非常に分かり易くて、

ずばり言い当てる俳句だなあと感心しました。ま、そんなことも、これからの鳥海を核にした観光地づくりに生かしていけばいいなと思っております。

**委員** これは人から言われたことですが、種蒔き爺さんコンテストをやったらどうか。温暖化で万年雪がどんどん融けていて、姿が変わっている。だから残雪がどういう風に見えるかというのをコンテストにしたらどうか。それで何が得られるかという、自然環境について考え直してもらえる。どんな写真だっていいとなれば子どもだって撮れる。写真が好きじゃなくても、いろんな形が撮れたら楽しい。誰にでも参加できるイベントということでやってみたらどうか。

**委員** 観光地にするためには人材育成が一番先だと思う。案内所、拠点づくりも確かに必要ですが、案内するがいっぱいいても、その案内所まで案内する人がいなければだめだと思う。国道端で田植えや草刈りしていると、たまに車を止められて、家族村どこにあるのかと聞かれる。鳥海山を案内してくれる人いますかと聞かれても、山岳会の連絡先も分からなければ、インタープリターも分からない。八幡地域では誰に聞いてもすぐ分かるという人材育成も必要じゃないかと思う。

**委員** 大体皆さんと同じことになるが、最初に考えたことは情報。町の人全員が情報を持っているということだと思う。情報発信を核に考えないといけない。今、ネット社会ですので、鳥海山と探せば全て、登りたい人も、どう行けばいいとか、事細かいことが全部出てくるホームページがあれば便利になると考えた。それと、そういう風に発信すると、今度は施設も欲しくなるし、人が集まることによって少しずつ宿泊だとか山に行くためのバスだとか、そういうようなものも出てくるという感じになっていくと思う。升田に民泊できる場所何軒あるだろうと話がでましたが、いろんな会合に出てグリーン・ツーリズムを勉強している方もたぶん八幡でもたくさんいると思う。別に升田に限ったことじゃなくって、八幡地区全体で考えていけばいいことだし、小学生を民泊させた経験ある人がいっぱい八幡にはいると思うので、そういう人を育てていけば、少しずつ民泊してくれるところも増えていくと思った。

**委員** 農業体験とか色々ありますけれど、観光客からの要望が出てからの開業でよいのでは。需要があるかどうかということもありますしね。インタープリター、山岳ガイド、八幡観光とか連携を密にしていかないとだめかな。発信するのでもまず都会じゃなくても、地元の方が酒田辺りから来てくださるんだから、それからは初めて行けばいい気もしますけどね。

**委員** どうも話を聞いていると、ものを作ったから人を呼べとなっても赤字が生まれたらどうするんだということになる。誰が責任を負うかとなれば、行政の方だってそんなに強くも出られないという感じがした。そうなればその地域の皆さんがどういうことをすればいいかということになる。八幡の良さは山があったり川があったりで、農業、商業を一体化した観光として考えていかないといけないと思う。例えばですが、独活などの山菜を植えて、収穫して、ふれあい館で食べる体験ツアーはどうでしょう。そういうことができてから、それではこういった施設が必要になってくるということで。年間何人来れば採算が合うかばかり考えては何も出来なくなる。地域の皆さんがここのよさがどこにあるのかをじっくり考えてやらないと発展はないと考えている。

委員 要するに、行政や農協が主催になるとまず失敗する。だから、するのであれば、発言した人でグループを作り、「まずやるか」ということでなければ絶対成功しない。行政からお手伝いしてもらうようなこと、立派なことは何ぼでも言われる。する気があるのか、この指とまれということからしていかないといけない。それこそ種蒔き爺さんの写真展辺りから始めてみようという発想でいい。

委員 確かにそうだ。合併で、観光の範囲がお互いに広がっている。積極的に情報を流すべきと思う。私たちが遠くに行く場合、観光ルートが紹介されている雑誌などで探す。そういうことを考えても、山形県の酒田市としてぜひ来てもらいたいルート、料金などを明示して、情報を自ら分かるように出さないとだめだと思う。もう一つは、観光の施設設備を考えること。年間何百万もの観光客が来るのはそれだけの歴史的建築物や世界遺産などである。新しく何十億かけても観光地にはなれずに脱落してしまうことは、我々にもはっきり分かる。だから、施設に金かけて背伸びするのではなく、今ある施設、設備を使ってもらうということ、例えば升田の玉簾にしても、お客さんから話を聞き、こうしてもらいたいということはあると思うので、身近な人がアイデアを出し、進めることがいいと思う。

議長 この中から誰かが立ち上げていけば、連携、ネットワークということでしたが。

委員 協議会として決定する必要はないのか。今日の話の中で、出来ることからやりたいこととして、鳥海山のインフォメーションセンター、ミュージアムみたいな、そこに行けば全てのことが分かるもの。その中に有志の人たちが集まって、やってみようということとか。

委員 拠点を作って、発信していくことが必要。以前、舞鶴荘の利用を考えましたが奥まっているから、役場とか保健センターのように国道沿いにあるところを利用できればいいんですがね。

委員 他県ナンバーの車が来て、八幡の観光協会どこだとか、山岳協会の電話番号教えてくれと聞かれても分からない。例えば、ぐるっとバスに観光のための電話番号を書いてもらうとかあれば便利。そして必要なのは鳥海山ドットコムというスペック。今は来たい人が探すが、商売として考えた場合はその正反対であって、山荘でホームページ作り、今週はこの部屋泊まれますという発信をしなくてはならない。鳥海山ドットコムを立ち上げて、宿泊から切符の手配、旅行会社にも通ずるようなことをしていかないと、現在の社会から置いていかれる。それが出来ないのならまるっきりそれと縁の無い世界に。

委員 例えばたわわだとかに総合案内所を設けて、そこに行けば何でも分かるように。インターネットで調べれば、空室が分かる時代だ。そういうのは必要だと思う。

議長 お金をかけないでやれることがあるはず。

委員 玉簾の滝の情報をちょくちょく電話されて仕事にならない。今年は雪が少ないので、人が少ない。凍っている滝を写真撮りに来る人がいつもなら1日、20人も30人も来る。だから、観光というのは天気の良し悪しではないところもある。

議長 大体いいでしょうか。

## (2) 「放課後子ども対策提言書」について

**議長** 2番の「放課後子ども対策提言書について」に移ります。事務局よりお願いします。

**事務局** 11月末に、提言書案として、内容について考えておいてくださいよ、と皆さんにお渡ししました。その後、動きがありました。12月7日の県説明会で、放課後子ども教室を全市町村で行ってほしい、とりあえず全市町村で運営委員会を設置してくださいというもので、その取り組みが様々だということです。酒田市では、9月議会、石黒委員の質問に対して、「小規模校でも需要があることは認識している。ただし補助ももらえる人数ではない。小規模ながら独自のものを検討したい」という答弁です。9月の段階ではまだ県からの情報が入っていないのでこのような答弁だったわけです。今後放課後児童対策については、市でも必ず取り組むことになります。これについては、本第2回協議会に高橋委員から世田谷区の取り組みとして情報提供があった。八幡地域において、4千万円以上の学童保育施設を作った放課後児童対策を行うことは難しいと考えます。児童の減少で空き教室はあり、新しい制度が出来たわけですので、ボランティアの手配が出来れば、早急な取り組みが可能になると考えます。そこで、皆様からは、原案に修正するところがないかご意見をいただきたいことが一つ。もう一つは、市で取り組むことが分かっているのだから、この提言を提出することの是非についてご意見をいただきたいということです。

また、会長と市長との懇談を3月議会前に設定したいと考えています。その場で、18年度の協議会の内容を話すことでよいかということも含みながら議論をお願いします。

**議長** 2点について説明ありました。一つは提言書の中で書きたらないところがありましたら、意見を言ってください。もう一つは、提言の是非ですが、いかがでしょうか。

**委員** この提言書で確認したいところ、まず考え方として、放課後子ども教室を設置すると1所について128万8千円かかるが、それは国と県と市が各々3分の1ずつ負担する。市がそのほかに何万持ち出しになるか、あるいは児童の家庭から保育料という名目で徴収する形でシュミュレーションしています。提言書としてまとめる場合、無料とした場合これだけの費用、保育料という名目で徴収した場合いくらの持ち出しになりますよと、2本立て、3本立てにして分かり易く数字を出したほうが良いと思う。また、運営委員会が設置されれば、改めて提言書として出すとややこしくなる。運営委員会が設置された後、地域協議会で検証が必要だと思われた時に、皆さんから検討していただくのが良いと思う。

**事務局** 11月では国からの情報しかなかったもので、このような形でまとめました。市でやるという方向が打ち出されるとすれば、提言書を出す必要はないと思います。それから、国の基準そのものがすごく安い。保育料は無料が原則です。ただ、学童保育の場合、酒田市では月額7800円もらっていることからすると、お金払っても、充実した形で見てほしいという需要もあるのかと考えた。この案では、有償ボランティアとして来てもらおうと最低賃金から算定すると、これくらいの費用は掛かりますということを委員に説明したもので、提出する場合は分析した部分はカットされます。

**議長** 提言書を提出したものかどうか、それとも議会前に市長との懇談あるときに話し合いしたものか、ということですが。

**委員** 市側で運営委員会を設置するようであれば、改めて要望書という形での提出は必要ないと思う。

**委員** 早急に子どもの放課後対策を国の制度に乗ってやろうとするのであれば、需要はあるのでこれが一番手っ取り早いと思う。学校の空き教室がベストならいいのだが、新公民館建設に絡んで考えるとちょっと抵抗がある。新公民館にこういう施設を設けられるといいが。

**議長** 有料ボランティアとそれ以外の地域のボランティアの方に運営してもらうんですね。

**事務局** 現在のところは、市で具体的には何も考えていないと思います。県の説明から1ヶ月しか経っていないので。ただし、八幡で考えるとしたらこんな課題がありますというのが、この提言書です。

**委員** これニーズはあるんですか。

**事務局** 放課後児童の居場所ということで18年5月の調べで、一條小学校低学年で3人、高学年で9人。八幡地域全部で33人います。遠慮がちに出しているのか、こんな制度があれば増えるのか。ただ、市教育委員会の調べですので、正確な数字です。

**委員** これは要望があれば、保育園と違い、おばあちゃんがいても預けられるということですか。

**事務局** この事業は全児童が対象ですので、保育に欠ける要件は関係ありません。塾に行く子どもは参加できないし、6時までいられない子はどうするだとか、様々な心配があるでしょうが、まだこの事業は酒田市で取り組んでいないのでどういう形になるかは分かりません。

**委員** 升田児童館はすばらしい機能だ。ぐるっとバスで通えるなら、観音寺で雪遊びできないが升田ではできるし、夏は川遊びも出来る、玉簾にハイキングに行ける最高の場所だ。八幡地区は、バス一台回してほしいと要望しても悪くはない。結局は、親が子どもをどう育てたいか、どのような環境にしたいのかということ。自然の中で人間形成を育ませたいというのであれば、ふれあい館を使わなくても、コミュニティセンターとか体育館だとか芝生のグラウンドもある升田児童館がいい。

**委員** 放課後子ども対策ということで、おばあちゃんたちがいても、子ども同士、兄弟少ないから、ここで遊ぶことは大事。

**委員** この問題はPTAでも出てくる問題。事業をやってもらえれば子どもを抱えている親は喜ぶ。取り組むという方向だと思うのだが。

**委員** 升田児童館がそういった利用になれば、ふれあい館にいるお年寄りにとっても励みになると思う。

**委員** そうなれば、放課後來る子どもたちのため、昼過ぎからスタンバイしている。わら細工を教えるとか、染物を教えるとか、お年寄りが生き生きしてくる。

**委員** その中で行事組んで、今日は何々しましょうと、取り組んでもいい。

**委員** 升田だけで放課後子ども対策を考えるとしても子どもがいない。地域の子どもたちをみんなで育てる、みんなで安全を保障していくということをしていかないとだめだ。

**議長** 第2の課題、これでいいでしょうか。

### (3) 地域コミュニティづくりについて

**議長** 第3の課題、地域コミュニティづくりについて、事務局より説明願います。

**事務局** 自治会連合会でコミ振事務局体制の確立について、このようにして貰いたいと外部

要請したのが、自治連だより 44 号 2 ページ目にあります。また旧 3 町の動きとして、松山・山寺地区で今年 4 月からコミ振を行おうと予算要求しています。八幡の住民への説明はしていない訳で、観音寺区長会、日向区長会に 30 分ほど、私が出向いて動きを説明しています。今後の動きは見えてこないのですが、公民館地区の体制がはっきりして、形が決まらないうちに、旧 3 町に説明をしても混乱を招くのかとも思っています。現在のところ、住民にとってのネックは費用負担が伴うこと。どのコミ振も一律のサービスをする必要はない訳ですので、費用のかけ方もそれぞれ違うでしょうし、世帯数により取り組み易い形から取り組むのがよいとも考えます。皆さん情報が入らない中、発言することは難しいとは考えますが、現在の委員の考えをお聞かせいただきたいと思います。

**議 長** 公民館地区は 21 年度にコミ振に移ることが決まっていますか。

**事務局** どこが受けるかということではなく、主事の引き上げが決まっているということです。

**議 長** 旧 3 町については期限がないが、その方向にあるということですか。

**事務局** いいえ、それは決まっていません。21 年にコミュニティ振興会を立ち上げなさいということも決まっていません。ただ、コミュニティ振興会の設立を目指すということになります。これからの進め具合で急展開もあるかも知れません。

**委 員** 今、事務局から 3 地区の説明会を行ったとあったが。

**事務局** 観音寺地区と日向地区の区長会に説明をしたというものです。

**委 員** どうして、残りの地区には説明をしなかったのか。

**事務局** 区長会から要請があれば行くということにしていましたので。

**委 員** 区長会に一応説明会をやった。反応はどうだったか。地区の特色あって、質疑応答なども活発に行われたのか。

**事務局** 学区社協の説明と一緒に形で行きました。これくらいの費用負担で、これくらいの事務局を持ち、こんな活動をしているのが公民館地区のコミュニティ振興会ですという説明だけですので、時間も 30 分と短く活発な意見交換には至りませんでした。

**委 員** この問題は八幡地域にとっては、大きな問題だと受け止めている。現在の地区公民館組織は地域への浸透も図ってきているし、合併前に町職員から民間の職員に替えた予算措置も行っている。コミュニティに移行することによる予算的な措置を酒田市が示していない。しかしコミュニティ振興会に移行する方向は、施政方針でも市長が明言している。私は、そこまで示すのであれば、行政としての予算措置、負担はこれくらいと示すべきである。末端では負担がどうなるかが一番関心のあるところ。区費として 2 万円から 3 万 5、6 千円ほど納めているうえに負担が求められる。我が地域がコミ振に移行した場合、地域住民にとって活力が出て、負担も少なくプラスの面が多く期待できるのが最大の関心である。

旧市街地のコミュニティは圧倒的に世帯数も多く、その中でコミュニティ振興会を立ち上げてやってきた。八幡地域は 2000 世帯で人口も 7000 人と、酒田のコミ振より 4 地区合わせても少ない。そんな中で、市の考え方はどこも一緒に、コミュニティ組織に移行すると示してきたというのは、合併後 1 年では早すぎる。八幡地域にとっては、公民館の運営を市職員一人の人件費で賄っている実態がある。住民が公民館運営に不満があって、コミュニティに

移行したいということは聞いたことがない。その現状を踏まえて、大沢地区の地域懇談会で、市長に、せめて5年くらいの期間を置いて、地域住民の気持ちがそうなったときに移行の時期だと申し上げた。市長は「急ぐ必要はないと思っている」と答えた。地域協議会で色々討論することはいいことだと思うが、八幡地域にとってはマイナス面が多くて、地域住民はみんな地域で遣りなさいばかりで、行政は引き上げようとしていると感じる。まず拠点をどう考えているのか。行政は予算の面をどう考えているのか説明をして欲しい。私は心ある人には、良くなるのか、悪くなるのか、我々が真剣に考えなければならない問題だ、と話している。

**支所長** この件で外にご意見ありませんか。

**委員** 同感である。行財政改革の一環として、行政経費節減のため、地域に任せるとというのが表に出ている感じがする。丸投げされた地域は大変だと思う。公民館活動にコミュニティ活動が加味されて、最終的には地域で遣りなさいと丸投げされては非常に困ると思う。時間を十分もって、何回も論議して、はじめて「納得したので協力しましょう」と立ち上げて行くべきだと思うし、納得がいった時点でコミュニティ化するというのであれば、反対しない。

**委員** この間、市議会議員の一人は、コミュニティ活動は、結局はお金の問題なんだと言ったことが印象的だ。最初から金の問題を持ってきてやるのであれば、それは間違っていると思う。山寺の人とも話をしましたが、内容は把握してないと感じた。そういう中途半端な考えで、コミュニティ活動は進めたくない。去年の大沢地区地域づくり懇談会で市長が話したことは、これから動き始めるから、それを見てからゆっくりでいいよということでしたので、5年、6年かけてもいいと思う。じっくり考えて、その地域に良いものなのか、悪いものか。酒田市の方針としてあるのかも知れないが、中心部と、中山間部と、人口も戸数も多いところと一緒にされては困る。立ち上がってからしなければ良かったでは遅いので、立ち上がる前にじっくり考えていかないといけない。地域としては大きな問題だ。

**委員** 一條では地区社協を立ち上げてしまったというか、立ち上げたんですが。説明受けたのは民生委員と区長だけ。住民の人たちは、何がなんだか分からない人が大部分だと思う。打合せ会がだからと来てみたら、総会だったという状態で。コミュニティのこともどうなってしまうのか心配だ。もっと住民に、こういう風になっていくのですよと、話をするべきだったと考える。引き受けるとき、全体的なことが分かってない。今まで四つの地区をまとめて八幡で社会福祉協議会が成り立ち、不便のなかったものを、わざわざ四つに分ける必要があるのか。もっと末端の部分まで説明することが必要だと、すごく感じた。区長の中にも、こんなことをしてはこれから区長を引き受ける人がいなくなると心配していた。

**議長** 区長報酬の見直しもありますよね。去年の市長との懇談では、コミュニティ振興会立ち上げて欲しいということでした。住民不在の立ち上げでなくて、十分に説明して、話し合いをもって、納得して、時間をかけて、働いていかないと。その点慎重に協議会で話し合っていきたいと思います。

**委員** この問題だけでなく、小学校の統合問題についても同様だ。金がかからないようにという発想から、市民に問題を提起している感じを受ける。財政健全化のために、あなたが

た市民我慢しなさいよと。利用者からも応分の負担をしてもらいますよ、という発想かも知れないが、主人公は我々酒田市民である。一人一人の幸せを築く方向性を示す発想ではなく、こうするとどれだけ節約、これだけお金が浮くという発想にしか私には取れない。少なくともこの地区では受けられないと市にきちんと言う必要がある。区長から了解得たからということだけでは話にならない。本当にここの人たちが満足して、希望のある、八幡地区に住んでよかったという方向性を示してもらわないといけないと思う。

**議長** このことについて外にどなたかご意見ありますか。

**委員** No.44号コミ振の活動が表として出ているのをみると、防災活動だとか従来行政がかかわってきたことも、地域住民の自主的な運営として紹介されている。どこまで地方自治なのかという部分になってくる。どこまでが行政が関与するもので、どこまでが地域住民が中心になるのか整理が出来ていない。合併で地域差があるのなら平準化という作業を経てからやらなければならない問題もあると思う。これまで違う形で経費削減されてきたものを、合併で似たようなものはこうしなければならない状況だとすれば、問題だという感じがする。

**委員** 自治連だよりを見ると、市街地でも人件費をもっと欲しいと言っていますから。また聞こえてくるところによりますと、大変だと言っていますよね。

**委員** 会長、副会長に聞いたところ、予算的な措置されないために、私午前中、午後から誰々さんと、ボランティアで事務局をするようでは、身が入らなくてだめだという。市に申し上げてきたが、依然としてそれに対する方向づけがされない。私の発言に「我々も感じしておりますよ。」と言ったことが真実だと受け止めた。

**委員** どうすればいいのか、それともどうなるのかという観点で話せばいいのか。

**議長** どうしたいのかということがいいでしょう。

**委員** 私、自分の思いをズバツと言うけれど、名前だけ変わるのであればいい。今の人的なことも、年間予算も全く同じもので、コミュニティ振興会という名前にだけ変わるのであればいい。それが違う。世帯負担が伴う。事業費に対して何十パーセントの市の助成をします。そして、住民は苦しい家計の中で、2万も3万も出しているのに、振興会に変えただけで、また5千円なり1万円なり1戸の負担が伴ってくる。事業内容はそんなに変わらず、今までやったことにプラスして事業をやろうと思っても、メンバーの地域住民がとても忙しくて暇がなくなってしまう。今の状況で地域民が不満あるのなら直さなければならぬが、コミュニティ振興会に組織替えることによるメリット、デメリットを我々は聞いて、メリットが多いのであれば移行してもいい。デメリットがいっぱい考えられる時点で、移行するのは賛成出来ない。

**委員** 次回協議会では数字を出してもらわないと、メリット、デメリットが見えない。例えば観音寺のソフトボール大会をずとした場合、それがどう変わるのか。具体例を出して、比較できるようにしてもらわないとちょっと理解できない。

**委員** 東禅寺コミセンの社会教育費は総予算250万円に対して、個人負担が200万円もある。これは利用する人もいるし、世帯数もあるからだと思う。大沢や日向の世帯数が少ないところは、運営できるか疑問だ。一律に地区公民館をコミセン組織にしましょうとか、あるいは八幡地区は一つにしましょうという発想で話をしているのかという問題もある。地区

公民館は、地域住民の心の拠りどころとして何十年も活動してきた。それを今度は自分たちが主体になる訳だけれど、やれないような組織づくりであってはならないと思う。

**委員** この討論には、行政側から責任ある人を交えて、質疑応答して、八幡の地域の実情を理解してもらう機会を何回か設けていかないといけない。私たちだけでは壁に突き当たってしまう。

**委員** 八幡は指定管理者制度にして、公民館主事は行政から引き上げて民間に任せるとした訳だが、旧酒田市の公民館地区は酒田市の職員が張り付いているという問題が一つある。給料の高い人を引き上げ、行政をスリム化していくために、行政の人たちをリストラできればいいがそれは簡単に出来ないと思う。指定管理者制度になり、安い賃金で雇われて、仕事いっぱいやれと、そういう問題もあると思う。昨日、八幡体協の理事会があって、体育予算を削られたと聞いた。去年で町の八幡一周駅伝がなくなった分の予算 40 万円余る訳だから、予算削られる前に何か別の事業をいち早く企画していかないと、八幡地区は本当に活性化がなくなってしまう。一周駅伝でみんなが動いたマンパワーを、容易でなくてもやって行かないと益々寂れていく。

**委員** 予算を削れという話しかないのか。

**委員** 今週、沖縄県東村の子どもたちが来る。これも来年度は同じようにやれると聞いたが、その後、酒田でも今帰仁村と交流していて、それと一緒にいけるのか、それとも八幡と沖縄との交流が削られていくものなのか。その辺も酒田市からすれば、八幡の事業でこれだけの金を使っていると思われる。みんな平らになってしまうと、中学生海外派遣事業で八幡中の生徒誰もいけなくなるとか、一人だけ選ばれて行ったとか、そういう世界になる。もっと田舎の方に金いっぱい貰わないと益々寂れてしまうのではないかと思っている。

**支所長** 私から一言。この八幡地域協議会は権威ある組織で、皆さんの発言は市役所に届くし、記録として残ります。今回のコミ振のことについては、地区社協、学区社協も含めて、そう受け止めざるを得ないと思っております。皆さんの思いは感じ取りましたので、皆さんの意を体してこれからこれにかかわる会議に臨みますし、十分発言をして代弁をしまいたいと思います。市当局、担当課自体がまだ十分定まっていないところがありますし、方針、予算も決まっていないところがあり不完全な形で説明する、まして説明も十分しないのでコミ振ありき、あるいは学区社協ありきということ自体も間違っていると思っております。

地区社協については、担当課、社協から来てもらって顛末などを聞き、とんでもない話だと話しました。しかし地方分権の時代においては、自主性、自立性を高めていくことは事実だと思いますので、その方向性だけは皆さん確認してください。厳しいので、一気にできないから時間ください、財源くださいということで、みなさんがお願いをして行く中で解決できるのであれば、了解を得てきた一面もあります。市長の方針が、地区社協を始めコミ振化をかなり強く打ち出してきておりますので、不十分なことを正して、時間をかけているところはかけて、金をつけていただくものはつけていただいて、軟着陸していけるのであれば、私も行政マンの一人としてありがたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

そうは申しましても、主張すべきは大いに主張する、譲れないときは頑として拒否する姿

勢は大事です。市街地と郡部、あるいはこの地域の中でも観音寺、一條地区と大沢、日向地区の違いは厳然としてあることは事実です。それから歴史性も風土性も文化も、人間性もみんな違います。それから集落が河川に散在している大沢、日向を一つにまとめるというのは至難の業ということもあります。そういったことを全部ひっくるめて、社会教育から公民館活動から生涯教育から福祉から防災から青少年健全育成から全部やるというと難しいものがあります。いち早く、八幡は公民館の指定管理者制度を行いました。そのどこが悪くて再編成しなければならないのでしょうかという思いは私も皆さんと同感です。そうしたところを訴えながら、ぜひ納得できる軟着陸を果たしていければと思っておりますので、これからも声高く発言をしていただくようお願いをしたいと思います。

**議長** 支所長から力強い言葉を頂いて、私たちも意見を明確にして主張するところは主張していきたいと思えます。では外にご意見ありませんか。4番のその他の地域課題について、委員の皆さんからご発言ありますか。

#### (4) その他の地域課題について

**委員** 昨日の山形新聞に、県内の小規模特認校がいじめや不登校の立ち直りに成果があるという記事がありました。八幡地域でも日向小学校と大沢小学校がこの制度を取り入れていたはずなのに、去年11月ごろ、合併と同時にその制度はなくなったと間接的に聞きました。こんなにもいい制度を勝手に誰がなくしたのかと言いたい。というのは、将来どうせ日向、大沢なんかは自然消滅するのだと、だからもういらないと判断したものなのか。一般住民は合併してからもまだあるものと思いつけていたということに悔しさを感じる。俺たちを無視していたのではと。我々にいかなる手段でもいいので伝えて欲しい。今の中央公民館の話にしても全てそうだ。市民一人一人の心の問題だ。酒田市は金が貧しいのではなく、心が貧しいと言いたい。そうでなければ酒田市民となってよかったと思えない。容易でないばかりで、酒田市に住みたいという人いるのか。

**支所長** 八幡町内での通学は現在も認められていると認識していますが。現に大沢、日向小学校には学区外から入っていますから。

**委員** 新年度なると完全になくするという話も父兄から聞こえる。

**支所長** それは確認しますが、そういうことではないと思えます。

**委員** 以前、大沢小に特認校を利用して転校してきて、すぐ元気になったことがある。やはり小規模校はそういうメリットは大きい。

**議長** 八幡地域内からの通学はいいということでしたが。

**支所長** 前からそうでしたし、今もそうだと思いますが。

**委員** 今度合併したものだし、旧酒田市からも通学できるようにしたら。

**議長** 市内に広げるといことにならないかということですよ。

**委員** 合併の話の時俺たち合併は反対しない。生徒が少なくなれば仕方がない。しかし、新しい学校を作るときは升田に作って欲しいと要望したら、ぐうの音も出なかった。将来の酒田市を背負っていく子どもたちを、偏差値で人を判断する市民として育てたいのか、それとも痛みの分かる感性のある人に育てたいのか、どっちなのか。自然から学ぶというのは非

常にいいことだと言いたい。

**支所長** 中学校の統合問題で、五中が一中に、鳥海中が六中という統合問題が決議された訳です。それば旧市、合併前の話です。合併になって、鳥海中は六中より八幡中がより近い。五中は一中に近いので仕方ないですけど。この際、教育委員会で決定した事項だとしても、再編成、見直しがあつていいのではないかと。と言いますのも、八幡中学校はこれからもなくならないし、なくしてはならない中学校だと思えます。鳥海中の人たちが六中に行くよりは八幡中に来る。あるいは一部線引きをして、六中と八幡中に分けるという考え方もあつてもいいという話をしているのですが、なかなかその話が進まない。これは平田中でも同じことが言えると思えます。ましてや、学区を越えた転入、転出というのがあれば、学校の伝統、特色がある訳ですので、そういうものが好きで行く人があるかも知れません。そういう意味では、同じ酒田の中で動くんですからいいと思っておりました。その辺も、皆さんから出た話題として上に上げていけるのであれば、なお現実味を帯びてくると思う。

**委員** 八幡中を鳥海中に来てよと言われたらどうするとなる。

**委員** 先日、鳥海中PTA会長らと中学校の合併の話をしたが、鳥海中の保護者の人たちは、六中と合併したくない意見が多いという話がありました。できれば環境が似ている八幡中とか一緒になりたいというのが本音のようでした。大島田あたりに新しい中学校でできればいいのにと。学区の再編成は声を大にすべきだと盛り上がった。

**委員** 鳥海が今、八幡中に合併したとしても、これから何年かしたらまた少なくなる。またまた、合併となって、鳥海あっちに行け、こっちに行けということだと、鳥海では嫌がるという人もいた。八幡中は移らなくてもいいけども、今八幡に来て、あっちゃ行けと言われるのはいやだという話もあった。

**委員** 鳥海中と六中が一緒になると一学年が6クラス、7クラスになるとなじめないのではという話はしていた。上田と本楯小が一緒になったが、上田でも太鼓をやっている、本楯地区でも活動しなくてはならず子どもたちが大変だという話もしていた。ただ、合併には時間はかかるが、上田地区も本楯地区も上手くいっているということだった。たぶん、八幡中もほかから受入れていいんだと思う。

**議長** ほかに何かございますか。

**委員** 日向地区も学区社協を立ち上げました。底辺まで論議する時間もなかったので、多数決で決めました。そういう傾向がこれからも、行政の押し付けで決められるようでは困るものだなと思った。もっと議論をすべきだと感じている。

**委員** 高校生の声として、るんるんバスを部活などで利用している子がいるが、週3回を増便できないか。本楯地区の停車するところが多くて、時間がかかる。その辺簡略化できないかということなのですが。

**事務局** なんとも答えようがない。中央公民館から市立酒田病院まで1時間5分ぐらいかかる。高校生の通学バス用でなく、お年寄りが市立病院へ通院するバスとしての位置付けが大きい。

**事務局** 3月で任期が切れるので、感想文の作成をお願いすることになりました。

それから、2月16日の広報で地域協議会公募委員の募集をします。新委員、新協議会のスケジュールは3月上旬の調整、審査、決定。4月中ごろの第1回協議会開催、委嘱状交付と予定しています。それから昨年3月、由利本荘市鳥海地域協議会との交流を行いました。また由利本荘市鳥海支所から交流会やりませんかと電話がありました。今年度中に行うように進めたものか検討いただきたいと思います。

**議長** 鳥海地域協議会とのことですがいかがでしょうか。

**委員** 年間一回くらいは八幡出身の市議員との懇談の場があってもいいような感じがしますが、どうだろう。

**事務局** 由利本荘市と話し合いも必要でしょうが、共通の課題ということからすると、平田、松山の地域協議会と話し合いをするほうが実りあるという考え方もできる。議員との懇談や区長会との懇談を持ちたい考えは今年もあったので、来年はぜひ考えたいが。

**議長** 鳥海とのこと、どうでしょうかね。

**委員** 副会長と会長が話し合って決めてください。

**議長** それでは事務局と相談しまして、決めたいと思います。

## 7 閉 会

**副会長** 以上をもちまして、平成18年度第4回八幡地域協議会を閉会します。